

文化振興施策の事業体系の分類による平成30年度文化振興関連事業のうち主なもの一覧（進捗状況）

◎：目標達成 ○：順調に進捗 △：遅れているが進捗はしている ×：進捗なし

分野	分類	区分	H30年度における事業展開(主な事業) (H29年度に終了した事業については最終年度の事業名)	再掲	H30年度 事業概要 (H29年度に終了した事業については最終年度の事業概要)	H30年度 事業予算 (千円)	事業成果	H29年度 決算額 (千円)	事業期間(終期)	事業 進捗 評価	担当課	
歴史文化 資源活用 分野	(1) 歴史文化資源活用施策全般について											
	① 施策対象のデータベース化	継続	歴史文化資源データベースの構築		歴史文化資源の総合的・積極的な発信により、奈良県内外の方々の「文化資源と触れる動機付け」、「文化資源に対する価値意識の醸成」へとつながるデータベース及びホームページの更新・運用を行う。	13,150	約230件の歴史文化資源をホームページで公開	13,117	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	歴史文化資源説明力向上事業		県全体で歴史文化資源の説明力向上を図るため、研修を実施する。	265	8月及び10月に市町村職員等に研修を実施	198	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	奈良史料編纂事業		県内の古文書の史料編纂を行うことにより、比類ない奈良の歴史文化の背景や魅力を資料面から裏打ちし、奈良の歴史の価値を高めるとともに、一般県民にわかりやすく伝える。	3,089	県内の古文書「庁中漫録」の翻刻を実施し、「史料叢書三」を作成。また、一般県民へこれらの史料を分かりやすく伝えるために、古文書講座を開催し、133名が参加。	1,082	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	文化財活用推進事業(近世後期社寺建造物調査事業)		各時代の貴重な建造物を保存し、次代に継承していくため近世後期の社寺建造物について調査を実施する。	1,217	各時代の貴重な建造物を保存し、次代に継承していくため近世後期の社寺建造物について調査(平成29年度:152件)を実施。	308	平成29年度～	○	文化財保存課	
	② 補助金を通じた整備・活用の支援体系の再構築	継続	文化資源整備活用事業(文化資源活用補助)		未指定文化財を含む地域の歴史文化資源を活用した地域振興に資する取り組み(保存・修理、活用のための整備、普及啓発のための情報発信)に対して支援を行う。	30,000	歴史文化資源活用のための整備にかかる事業13件、普及啓発のためのイベント事業20件に対して支援を実施。	24,728	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	文化資源整備活用事業(史跡等整備活用補助)		市町村が実施する国指定史跡等文化財の積極的な活用につながる整備活用、土地買い上げ等、学術発掘調査に対して支援を行う。	40,000	市町村が実施する国指定史跡等文化財の積極的な活用につながる整備活用、土地買い上げ等、学術発掘調査14件に対して支援を実施。	49,058	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	文化資源整備活用事業(文化財保存事業費補助(県指定文化財))		県指定文化財について、所有者・管理者が行う保存修理事業に対して補助する。	123,178	県指定文化財について、所有者・管理者が行う保存修理事業に対して補助を行った。	72,350	平成29年度～	○	文化財保存課	
		継続	文化財保存事業費補助金		国指定文化財について、所有者・管理者が行う保存修理事業に対して補助する。	212,743	国指定文化財について、所有者・管理者が行う保存修理事業に対して補助を行った。	324,191	平成29年度～	○	文化財保存課	
	③ 情報発信強化	継続	「記紀・万葉プロジェクト」推進事業		「記紀・万葉プロジェクト」に関連する事業全体を推進するために必要な有識者の聞き取りや、事業のPR等。	1,500	「記紀・万葉プロジェクト」を推進するために必要な事業PR、他府県連携等の実施。	657	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	聖徳太子プロジェクト推進事業		聖徳太子没後1400年を迎える2021年に向けて、県内ゆかりの市町村等と連携しながら、聖徳太子を広く知ってもらうためのイベントによる情報発信や聖徳太子ゆかりの市町村との連携を目的とする協議会を実施し、県内への誘客に繋げ、地域活性化を図る。	8,000	■聖徳太子シンポジウムの開催 平成29年12月17日に奈良春日野国際フォーラム兼で開催。有識者等による基調講演やパネルディスカッションと共に雅楽のコンサートを実施。また、合わせて市町村の観光PRブースを設置した。 ■聖徳太子プロジェクト推進協議会 第1回(7月22日) 各市町村が実施する太子ゆかりのイベント情報や関連資料を共有。 第2回(10月3日) 市町村域を超えた旅行ルート案をワークショップ形式で検討。	7,492	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		完了	NHK大河ドラマ誘致事業		2020年東京オリンピックに向けて、奈良は1300年前の古代の首都であり、国際色豊かな文化を展開してきた地であったことを積極的に情報発信していくため、東京オリンピックイヤーにNHK大河ドラマを誘致する。	0	国際色豊かな文化を展開してきた奈良の地を積極的に情報発信するため、2020年の大河ドラマ誘致活動を行ってきた。同年の大河ドラマが平成29年度を目処に決定されたことから、当該事業については目的を達成。	156	平成29年度～	◎	文化資源活用課	
		継続	世界遺産保存管理事業		県内の3件の世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物」「古都奈良の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」の保存・活用のための諸経費	689	県内の3件の世界遺産「法隆寺地域の仏教建造物」「古都奈良の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」の保存・活用のための取組を推進	670	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	世界遺産登録推進事業		世界遺産暫定一覧表に記載された「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録実現に向け、県、橿原市、桜井市、明日香村で構成する世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会において登録推進に取り組む。	6,770	世界遺産暫定一覧表に記載された「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録実現に向け、県、橿原市、桜井市、明日香村で構成する世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会において登録推進の取組を推進	6,270	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	特別展(仮称)「出雲と大和」開催準備事業		2020年1～3月、東京国立博物館で開催予定の特別展「出雲と大和」(仮称)にかかる出展交渉等開催準備。	20,878	平成29年5月19日 特別展「出雲と大和」(仮称)実行委員会設立。 同日、東京国立博物館において、第1回実行委員会を開催した。	2,777	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	文化資源情報発信強化事業		奈良の豊富な文化財や史跡などの文化財について、一般県民や観光客に奈良の歴史文化の背景や魅力をわかりやすく伝え、奈良の歴史の価値を高めるために文化資源の情報発信を強化する。	1,946	一般県民や観光客に奈良の歴史文化の背景や魅力をわかりやすく伝えるために、「推古天皇」と「聖徳太子」を題材にしたアニメーションを作成、平成30年度より平成29年度までに作成したアニメーションと共に県内各所で放映。他に、壬申の乱頃の甲冑をモデルとした甲冑の試着体験や古代奈良の中心人物の一人である「中大兄皇子」「中臣鎌足」を題材にした冊子の作成等複合的な展開を実施。	18,269	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	「古代歴史文化賞」連携事業		首都圏においてシンポジウム(古代歴史文化賞受賞者による基調講演、パネルディスカッション等)を開催。	12,100	平成30年2月10日、銀座プロッサム(東京)において「古代歴史文化賞」記念シンポジウム及び連携推進懇談会を開催。大賞受賞者による記念講演、古事記よみ語り、知事と大賞受賞者によるパネルディスカッション、首都圏のマスメディアや旅行事業者等を招待した懇談会を実施した。	12,069	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		完了	「なら記紀・万葉名所図会」制作事業		文化や仏教思想、人物をテーマに『日本書紀』の面白さ、県内ゆかりの魅力を発信するパンフレットを制作		「なら記紀・万葉名所図会—日本書紀・旅編—」50,000部を発行、配布。	4,990	平成29年度	◎	文化資源活用課	
		完了	「記紀・万葉プロジェクト」広報PR事業		メディアへの広報、HPのコンテンツ作成、PR映像の活用等に加え、2020年に向けた事業実施計画を策定		メディアへの広報、HPのコンテンツ作成、PR映像の活用等を行った。	9,700	平成29年度	◎	文化資源活用課	
		継続	ゲーム会社コラボ企画推進事業		既存の人気スマホゲームとコラボし、ゲーム内での特別ステージやキャラの登場、県内外でのイベント等を実施	0	平成29年6月29日から11月6日、「記紀・万葉プロジェクト」に関連した社寺・遺跡・観光施設等23件と、その近隣の鉄道駅20駅をスポットに設定したデジタルスタンプラリーを実施した。	0	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	記紀で古代を学ぶ事業		記紀を語る講演会と古代を感じるアトラクションを開催することで古代を学ぶ。	10,000	古代にまつわる講演会・ワークショップを県内5カ所で開催した。	8,000	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	記紀を学ぶこども塾		小学生が楽しみながら『古事記』『日本書紀』に親しめるよう、参加体験型の講座を開催。	0	県内小学校2校において、小学生が楽しみながら『日本書紀』に親しめるよう、参加体験型の講座として「日本書紀こども塾」を開催。日本書紀についてのお話、すごろく大会、天平衣装体験など。	0	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	全国高校生歴史フォーラム開催事業		高校生に歴史地理関連のレポートを募集し、優秀者が発表するフォーラムを開催する。奈良大学との共催。	705	平成29年11月18日、奈良大学において、全国から集まった研究レポート116点の中から審査委員により選ばれた優秀賞受賞者及び受賞グループの代表者が、その研究成果を発表し、特に優秀な発表に対し「学長賞」「知事賞」などを授与した。	343	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	「なら記紀・万葉」シンポイベント開催事業		古事記という書物そのものに親しみ、その魅力を体感できるイベントとして「古事記のまつり」を開催。	8,000	平成30年1月13日、奈良春日野国際フォーラム兼～1RA・KA～において、「古事記のまつり」を開催。古事記朗誦大会、こども古事記かるた大会、石見神楽の上演などを実施した。	8,000	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		新規	「記紀・万葉プロジェクト」2020準備事業		日本書紀編纂1300年を迎える2020年に1年間を通じて開催する記紀・万葉集大成事業の企画・立案とインターネットを活用した情報発信を実施。	4,242			平成30年度～			文化資源活用課 橿原考古学研究所
	④ 国際展開	新規	文化資源保護国際協力事業		アジア太平洋地域の文化財保護協力の国内拠点として、さまざまな保護協力事業を実施しているユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所へ助成	36,033	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所へ助成	34,944	平成29年度～	○	文化資源活用課	
		継続	奈良の仏像海外展示事業		東京オリンピックに向けて、インバウンドの促進のため、奈良の仏像等を欧州の著名な美術館・博物館で展示し、日本の文化の源流である奈良を発信し、欧州における奈良の認知度を高める。	152,000	欧州での奈良の認知度を高めるために、オリンピック前年である2019年にフランスパリ・ギメ東洋美術館及び英国ロンドン・大英博物館での展示会開催を決定。円滑な開催に向け、出陣社寺や開催館等と関係各所と継続的な調整を実施	4,471	平成29年度～	○	文化資源活用課	
	⑤ 地域交流	継続	文化資源保護国際協力事業	再掲	アジア太平洋地域の文化財保護協力の国内拠点として、さまざまな保護協力事業を実施しているユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所へ助成	36,033	ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所へ助成	34,933	平成29年度～	○	文化資源活用課	
継続		文化資源地域交流・人材育成事業 (「市民発掘隊」の創設と広報事業の充実)		1. 発掘調査への参加を希望する県民を公募し発掘隊員を養成する。 2. 「種考研通信」(一般向け考古学・埋蔵文化財ニュースの公開冊子)の発行。	1,820	1. 市民発掘隊の養成講座を実施(平成29年度修了者12名)。養成講座修了者のうち、希望した21名(平成28年度9名、平成29年度12名)が、橿原考古学研究所の実施する発掘調査に参加。養成講座(新規募集)は平成30年度で終了の予定。 2. Vol3及びVol4を刊行し、当研究所および博物館をはじめとする県内の文化施設や近鉄主要駅などで多数配布し、内容に対する一般の方々の反応も良好であった。また、県外の方々からの入手希望も多く反響を呼んでいる。	1,144		○	橿原考古学研究所		

文化振興施策の事業体系の分類による平成30年度文化振興関連事業のうち主なもの一覧（進捗状況）

◎：目標達成 ○：順調に進捗 △：遅れているが進捗はしている ×：進捗なし

分野	分類	区分	H30年度における事業展開(主な事業) (H29年度に終了した事業については最終年度の事業名)	再掲	H30年度 事業概要 (H29年度に終了した事業については最終年度の事業概要)	H30年度 事業予算 (千円)	事業成果	H29年度 決算額 (千円)	事業期間(終期)	事業 進捗 評価	担当課	
⑥ 人材育成		継続	文化資源地域交流・人材育成事業 (文化財"体感"事業)		文化財保護に関する取り組みを奈良県の重要な文化資源として活用・発信していくため、文化財の修理・修復に関する"体感"できるメニューを設け、参加者に提供する。(文化財修理・修復"体感"モニター事業、建造物修復現場インターンシップ)	3,020	建造物修復現場インターンシップを実施。高等学校の建築科、高等技術専門校の建築科訓練生が3日間体験や1日体験を行った。また、「奈良県民俗文化財講演会」を開催し、民俗文化財の保存と活用について、映像上映や講演、パネルディスカッションを実施した。	529,358	平成29年度～	○	文化財保存課	
		継続	奈良県文化芸術振興奨学金事業		文化財修復技術や伝統工芸技術継承など、本県の文化芸術の担い手となる大学生等に対し、「奈良県文化芸術振興奨学金基金」を活用し、(独)日本学生支援機構への奨学金返還を免除する。	10,500	奈良県文化芸術振興奨学金事業の助成候補者を募集し、助成候補者の認定を行った。また基金への積み立てを行った。	2,529	平成29年度～	○	教育振興課	
		継続	文化資源地域交流・人材育成事業 (文化財"体感"事業)	再掲	文化財保護に関する取り組みを奈良県の重要な文化資源として活用・発信していくため、文化財の修理・修復に関する"体感"できるメニューを設け、参加者に提供する。(文化財修理・修復"体感"モニター事業、建造物修復現場インターンシップ)	3,020	建造物修復現場インターンシップを実施。高等学校の建築科、高等技術専門校の建築科訓練生が3日間体験や1日体験を行った。また、「奈良県民俗文化財講演会」を開催し、民俗文化財の保存と活用について、映像上映や講演、パネルディスカッションを実施した。	529,358	平成29年度～	○	文化財保存課	
		継続	文化資源地域交流・人材育成事業 (「市民発掘隊」の創設と広報事業の充実)	再掲	1. 発掘調査への参加を希望する県民を公募し発掘隊員を養成する。 2. 「種考研通信」(一般向け考古学・埋蔵文化財ニュースの公開冊子)の発行。	1,820	1. 市民発掘隊の養成講座を実施(平成29年度修了者12名)。養成講座修了者のうち、希望した21名(平成28年度9名、平成29年度12名)が、橿原考古学研究所の実施する発掘調査に参加。養成講座(新規募集)は平成30年度で終了の予定。 2. Vol3及びVol4を刊行し、当研究所および博物館をはじめとする県内の文化施設や近鉄主要駅などで多数配布し、内容に対する一般の方々の反応も良好であった。また、県外の方々からの入手希望も多く反響を呼んでいる。	1,144		○	橿原考古学研究所	
		継続	ボランティア解説員設置事業		橿原考古学研究所附属博物館にボランティア解説員を常駐させ来館者へのサービス向上を図るとともに、ボランティアの地域社会活動への参加の機会を提供する	531	「案内が楽しかった」、「わかりやすかった」、「親切にしてくれた」等の意見が毎月のようにご意見ボードに寄せられた。	526		○	橿原考古学研究所附属博物館	
(2) 文化振興施策全般について												
① 県民意識の醸成(文化力の向上)	継続	ムジークフェストなら2018開催事業			音楽を通じて奈良の魅力発信し、観光誘客を促進するため5月7日～6月3日に県内各地で開催。県民や観光客に質の高い音楽鑑賞の機会を提供。世界遺産の社寺など奈良らしい場所を会場として質の高いコンサートを展開。	112,200	平成29年6月10日～25日の16日間、奈良県内の社寺、文化施設、まちなかの飲食店、ホテルなどを会場に、県内21市町村・137会場で251公演を実施し、約12万4千人が参加(連携イベントを含むと約18万1千人)。	129,800	平成29年度～	○	文化振興課	
	新規	地域伝統芸能全国大会開催準備事業			平成31年度に奈良県で開催する地域伝統芸能全国大会の開催準備。	630			平成30年度～		文化振興課	
	継続	奈良県大芸術祭の開催事業			芸術文化活動を奨励し、県民に芸術文化に親しんでいただくため9月から11月の3ヶ月間、音楽、演劇、芸能、舞踊、美術など幅広いジャンルの芸術文化イベントを県内各地で開催。幅広い層の県民の参加が特徴。平成30年度から奈良県障害者大芸術祭と一体開催。	61,800	9月1日から11月30日までの3か月間にわたり、「文化の力で奈良を元気に！」をテーマに、芸術文化活動に親しんでいただけるよう、多様なジャンルのイベントを県内各地で開催。(開催催事数:808 参加者数:約138万人)	68,128	平成29年度～	○	文化振興課	
	新規	奈良県障害者大芸術祭開催事業			障害者の芸術文化活動の振興を図り、障害のある人となない人の交流が進むよう9月から11月の3ヶ月間、様々なジャンルの芸術文化イベントを県内各地で開催。平成30年度から奈良県大芸術祭と一体開催。	16,600			平成30年度～		文化振興課	
	完了	国民文化祭の開催事業 全国障害者芸術・文化祭の開催事業			平成29年9月から11月の3ヶ月間、国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を全国で初めて一体開催。「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」を基本理念に県内全市町村で様々なイベントを開催。		平成29年(2017年)9月1日から11月30日までの3か月間にわたり、「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」をテーマに県内全域において、800を超える文化・芸術イベントを開催し、約142万人が参加。	377,825	平成29年度	◎	文化振興課	
	継続	奈良県美術展覧会の開催			県民の芸術に対する関心を高め、成果の発表の場として10月から11月に文化会館で開催。県内外より日本画、洋画、彫刻、工芸、書芸、写真の作品を募集して行う展覧会。	2,800	(平成29年度実績) ・出品数: 931点(日本画・洋画・彫刻・工芸・書芸・写真の6部門) ・来場者数: 7,401人(一般公開 平成29年10月28日(土)～11月3日(金) 但し10月30日(月)は休館)	2,300	平成29年度～	○	文化振興課	
	継続	奈良県ジュニア美術展覧会開催事業			県内の青少年の美術活動の充実と振興を図ることを目的として9月に文化会館で開催。次世代を担う青少年の成果発表の場。日本画、洋画、彫刻、工芸・デザイン、書芸、写真の作品を募集して行う展覧会。	1,969	(平成29年度実績) ・出品数: 670点(日本画、洋画、彫刻、工芸・デザイン、書芸、写真の6部門) ・来場者数: 2,299人(一般公開 平成29年9月17日(日)～9月24日(日) 但し9月19日(火)は休館)	2,138	平成29年度～	○	文化会館	
	継続	プロムナードコンサート2018			地元のプロオーケストラと著名な指揮者・ソリストとの共演によるクラシックコンサート。さらに、上質な音楽に触れる機会を求める若者を支援するための企画を導入。	7,411	平成29年8月13日(日)開催 来場者数737人	7,106	平成29年度～	○	文化会館	
	継続	宿泊観光客の増加に向けた冬期イベント展開事業 (奈良大立山まつり)			冬期のオフシーズンの宿泊観光客の増加を図るため平城宮跡で開催。無病息災を祈る「奈良大立山まつり」の実施及び奈良県の伝統行事を一体的に展開。	80,000	平成30年1月26日～28日(3日間)開催(集客数:2.4万人)。 平城宮跡朝堂院周辺で県内各地の伝統行事の披露、県内全市町村が出演したあかもんグランプリと地域ならではの特産品の販売及びこども縁日、こども広場、ロードトレイン、キャラクターショーのこどもが楽しめる企画を実施。	120,000	平成29年度～	○	ならの観光力向上課	
	継続	まちなみ資産と芸術を活用したまちづくり推進事業 (奈良・町家の芸術祭 はならあと)			歴史的な町並み・町家と斬新な発想を持つアートを組み合わせることにより、空き町家等地域資源の活用や、地域コミュニティの再生、来訪者との交流の促進等によるまちの活性化を目的として開催する地域型アートプロジェクト。	11,208	「奈良・町家の芸術祭はならあと」を、県内の歴史的町並みが残る4地域で計17日間にわたり開催した。56組の作家が出演し、合計16,500人が来場した。	9,162	平成29年度～	○	地域デザイン推進課	
	② 伝統的な文化の継承・発展・保存	完了	ならの農村文化創造事業			農村にある文化的資源を発掘・とりまとめることにより、住民が農村の持つ魅力を再認識することや、都市住民を農村地域に呼び込むとともに、農村資源の新たな魅力を県内外に発信するシンポジウムを開催し、農村文化を広くPRする。		農村にある文化的資源を発掘・とりまとめ、小冊子・DVDを作成し関係団体等に配布を行うとともに、農村資源の新たな魅力を県内外に発信する「農村文化の魅力を未来へ伝えるシンポジウム」を平成29年9月10日に「なら100年会館 大ホール」において開催(参加者 700名)し、農村文化のPRを行った。	10,831	平成29年度	◎	農村振興課
		継続	文化芸術による子どもの育成事業			小中学校において、芸術文化団体による実演、芸術家派遣やワークショップを実施。子どもたちに質の高い芸術文化を鑑賞・体験する機会を確保、将来の芸術家や観客を育成。	-	プロの芸術家を希望のあった学校に派遣し、本物の芸術に触れたり、ワークショップを体験することなどを通して、芸術に対する興味・関心を深めることができた。	-	平成29年度～	○	学校教育課
		継続	郷土学習の推進事業			郷土への愛着を深め、郷土をよりよくしていこうとする態度の育成を図るため、小中学校において、郷土の自然や文化、人々と触れ合いを生かした学習を推進する。	975	郷土教育を推進するため、郷土の資源を生かした指導事例集を作成し、県内全ての公立小中学校299校に配布した。	554	平成29年度～	○	学校教育課
		継続	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習充実事業			「郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の指導」奈良TIMEを県立学校において実施し、郷土を愛する態度を養う。	5,702	全ての県立高等学校で、「郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の指導」を実施するとともに、年1回の指導者研修会と学習発表会をそれぞれ実施した。また、県立高等学校1校で関連する研究指定校事業を受託し実施した。	1,435	平成29年度～	○	学校教育課
継続		文化財活用推進事業(無形民俗文化財保存連絡協議会による伝承・活用事業)			協議会を結成し、全国伝統芸能大会等への出演への足がかりとし、芸術家村を活動の拠点とする。さらに過去の無形民俗文化財の映像40件をデジタルアーカイブ化することで今後の伝承に役立て、大会や芸術家村で一般に公開し、普及に繋げる。	1,400	無形民俗文化財棟の保存・継承及び普及・啓発のため、これまでに撮影記録した映像のデジタルリマスター(平成29年度:8件)を行った。	1,080	平成29年度～	○	文化財保存課	
継続		文化財活用推進事業(無形文化財・選定保存技術伝承・活用事業)			郷土教育の教育素材や芸術家村で活用するため、選定保存技術や無形文化財の映像等を作成。	4,650	無形民俗文化財・選定保存技術を一般県民に広く周知し、理解を深めてもらうために、映像と写真による記録(平成29年度:5件)を行った。	4,495	平成29年度～	○	文化財保存課	
継続		ムジークフェストなら2018開催事業	再掲		音楽を通じて奈良の魅力発信し、観光誘客を促進するため5月7日～6月3日に県内各地で開催。県民や観光客に質の高い音楽鑑賞の機会を提供。世界遺産の社寺など奈良らしい場所を会場として質の高いコンサートを展開。	112,200	平成29年6月10日～25日の16日間、奈良県内の社寺、文化施設、まちなかの飲食店、ホテルなどを会場に、県内21市町村・137会場で251公演を実施し、約12万4千人が参加(連携イベントを含むと約18万1千人)。	129,800	平成29年度～	○	文化振興課	
新規		地域伝統芸能全国大会開催準備事業	再掲		平成31年度に奈良県で開催する地域伝統芸能全国大会の開催準備。	630			平成30年度～		文化振興課	
継続		奈良県大芸術祭の開催事業	再掲		芸術文化活動を奨励し、県民に芸術文化に親しんでいただくため9月から11月の3ヶ月間、音楽、演劇、芸能、舞踊、美術など幅広いジャンルの芸術文化イベントを県内各地で開催。幅広い層の県民の参加が特徴。平成30年度から奈良県障害者大芸術祭と一体開催。	61,800	9月1日から11月30日までの3か月間にわたり、「文化の力で奈良を元気に！」をテーマに、芸術文化活動に親しんでいただけるよう、多様なジャンルのイベントを県内各地で開催。(開催催事数:808 参加者数:約138万人)	68,128	平成29年度～	○	文化振興課	
新規		奈良県障害者大芸術祭開催事業	再掲		障害者の芸術文化活動の振興を図り、障害のある人となない人の交流が進むよう9月から11月の3ヶ月間、様々なジャンルの芸術文化イベントを県内各地で開催。平成30年度から奈良県大芸術祭と一体開催。	16,600			平成30年度～		文化振興課	
完了	国民文化祭の開催事業 全国障害者芸術・文化祭の開催事業	再掲		平成29年9月から11月の3ヶ月間、国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を全国で初めて一体開催。「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」を基本理念に県内全市町村で様々なイベントを開催。		平成29年(2017年)9月1日から11月30日までの3か月間にわたり、「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」をテーマに県内全域において、800を超える文化・芸術イベントを開催し、約142万人が参加。	377,825	平成29年度	◎	文化振興課		

文化振興施策の事業体系の分類による平成30年度文化振興関連事業のうち主なもの一覧（進捗状況）

◎：目標達成 ○：順調に進捗 △：遅れているが進捗はしている ×：進捗なし

分野	分類	区分	H30年度における事業展開(主な事業) (H29年度に終了した事業については最終年度の事業名)	再掲	H30年度 事業概要 (H29年度に終了した事業については最終年度の事業概要)	H30年度 事業予算 (千円)	事業成果	H29年度 決算額 (千円)	事業期間(終期)	事業 進捗 評価	担当課
③ 情報発信強化		継続	奈良県美術展覧会の開催	再掲	県民の芸術に対する関心を高め、成果の発表の場として10月から11月に文化会館で開催。県内外より日本画、洋画、彫刻、工芸、書芸、写真の作品を募集して行う展覧会。	2,800	(平成29年度実績) ・出品数: 931点(日本画・洋画・彫刻・工芸・書芸・写真の6部門) ・来場者数: 7,401人(一般公開 平成29年10月28日(土)～11月3日(金) 但し10月30日(月)は休館)	2,300	平成29年度～	○	文化振興課
		継続	宿泊観光客の増加に向けた冬期イベント展開事業 (奈良大立山まつり)	再掲	冬期のオフシーズンの宿泊観光客の増加を図るため平城宮跡で開催。無病息災を祈る「奈良大立山まつり」の実施及び奈良県の伝統行事を一体的に展開。	80,000	平成30年1月26日～28日(3日間)開催(集客数:2.4万人)。 平城宮跡朝堂院周辺で県内各地の伝統行事の披露、県内全市町村が出演したあつたかもぐらんぷりと地域ならではの特産品の販売及び子ども緑日、子ども広場、ロードトレイン、キャラクターショーのこどもが楽しめる企画を実施。	120,000	平成29年度～	○	ならの観光力向上課
	④ 人材育成	継続	ムジークフェストなら2018催事業	再掲	音楽を通じて奈良の魅力を発信し、観光誘客を促進するため5月7日～6月3日に県内各地で開催。県民や観光客に質の高い音楽鑑賞の機会を提供。世界遺産の社寺など奈良らしい場所を会場として質の高いコンサートを展開。	112,200	平成29年6月10日～25日の16日間、奈良県内の社寺、文化施設、まちなかの飲食店、ホテルなどを会場に、県内21市町村・137会場で251公演を実施し、約12万4千人が参加(連携イベントを含むと約18万1千人)。	129,800	平成29年度～	○	文化振興課
		新規	地域伝統芸能全国大会開催準備事業	再掲	平成31年度に奈良県で開催する地域伝統芸能全国大会の開催準備。	630			平成30年度～		文化振興課
		継続	奈良県大芸術祭の開催事業	再掲	芸術文化活動を奨励し、県民に芸術文化に親しんでいただくため9月から11月の3ヶ月間、音楽、演劇、芸能、舞踊、美術など幅広いジャンルの芸術文化イベントを県内各地で開催。幅広い層の県民の参加が特徴。平成30年度から奈良県障害者大芸術祭と一体開催。	61,800	9月1日から11月30日までの3か月間にわたり、「文化の力で奈良を元気に！」をテーマに、芸術文化活動に親しんでいただけるよう、多様なジャンルのイベントを県内各地で開催。(開催催事数:808 参加者数:約138万人)	68,128	平成29年度～	○	文化振興課
		新規	奈良県障害者大芸術祭開催事業	再掲	障害者の芸術文化活動の振興を図り、障害のある人となない人の交流が進むよう9月から11月の3ヶ月間、様々なジャンルの芸術文化イベントを県内各地で開催。平成30年度から奈良県大芸術祭と一体開催。	16,600			平成30年度～		文化振興課
		完了	国民文化祭の開催事業 全国障害者芸術・文化祭の開催事業	再掲	平成29年9月から11月の3ヶ月間、国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を全国で初めて一体開催。「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」を基本理念に県内全市町村で様々なイベントを開催。		平成29年(2017年)9月1日から11月30日までの3か月間にわたり、「日本文化の源流を探る」「文化の今を楽しむ」「文化芸術立国の礎を築く」「障害のある人となない人の絆を強く」をテーマに県内全域において、800を超える文化・芸術イベントを開催し、約142万人が参加。	377,825	平成29年度	◎	文化振興課
		継続	奈良県美術展覧会の開催	再掲	県民の芸術に対する関心を高め、成果の発表の場として10月から11月に文化会館で開催。県内外より日本画、洋画、彫刻、工芸、書芸、写真の作品を募集して行う展覧会。	2,800	(平成29年度実績) ・出品数: 931点(日本画・洋画・彫刻・工芸・書芸・写真の6部門) ・来場者数: 7,401人(一般公開 平成29年10月28日(土)～11月3日(金) 但し10月30日(月)は休館)	2,300	平成29年度～	○	文化振興課
	継続	宿泊観光客の増加に向けた冬期イベント展開事業 (奈良大立山まつり)	再掲	冬期のオフシーズンの宿泊観光客の増加を図るため平城宮跡で開催。無病息災を祈る「奈良大立山まつり」の実施及び奈良県の伝統行事を一体的に展開。	80,000	平成30年1月26日～28日(3日間)開催(集客数:2.4万人)。 平城宮跡朝堂院周辺で県内各地の伝統行事の披露、県内全市町村が出演したあつたかもぐらんぷりと地域ならではの特産品の販売及び子ども緑日、子ども広場、ロードトレイン、キャラクターショーのこどもが楽しめる企画を実施。	120,000	平成29年度～	○	ならの観光力向上課	
	継続	まちなみ資産と芸術を活用したまちづくり推進事業 (奈良・町家の芸術祭 はならあと)	再掲	歴史的な町並み・町家と斬新な発想を持つアートを組み合わせるにより、空き町家等地域資源の活用や、地域コミュニティの再生、来訪者との交流の促進等によるまちの活性化を目的として開催する地域型アートプロジェクト。	11,208	「奈良・町家の芸術祭はならあと」を、県内の歴史的町並みが残る4地域で計17日間にわたり開催した。56組の作家が出演し、合計16,500人が来場した。	9,162	平成29年度～	○	地域デザイン推進課	
	⑤ 補助金等を通じた文化活動支援	継続	県立ジュニアオーケストラ運営事業		未来のトップアーティスト育成を目標に結成。小学生から大学生まで約50名の楽団員が所属。プロの演奏家との共演や定期演奏会等を通じ演奏家としての育成を図る。	8,000	演奏会を6月、10月、12月、3月の4回実施。3/11(日)に開催した第7回定期演奏会では1,100名が来場した。	6,901	平成29年度～	○	文化振興課
		継続	アーティスト・イン・レジデンス検討事業		国内外のアーティストを招聘し、創作活動や地域住民・芸術家等との交流を行うことにより、地域住民が地域に根付いた文化の価値に気づくとともに、地域資源の再発見や新しい文化の創造を目指す。	500	平成29年度は有識者等からなるAIR研究会を3回開催し、奈良県において実施するに相応しいAIRのあり方検討を進めるとともに、地元である天理市と協力して、AIRのモデル実施に向けた検討を重ねた。		平成29年度～33年度(5年間)	○	文化振興課
		継続	文化芸術による子どもの育成事業	再掲	小中学校において、芸術文化団体による実演、芸術家派遣やワークショップを実施。子どもたちに質の高い芸術文化を鑑賞・体験する機会を確保。将来の芸術家や観客を育成。	-	プロの芸術家を希望のあった学校に派遣し、本物の芸術に触れたり、ワークショップを体験することなどを通して、芸術に対する興味・関心を深めることができた。	-	平成29年度～	○	学校教育課
完了	新たな文化活動チャレンジ補助金		県民の多くが文化に触れ、楽しむ環境を整備するため、芸術文化団体等が、自らの創意工夫に基づいて企画・運営を行う優れた芸術文化事業を支援。		平成29年度には30件の申請があり、22件が採択された。採択された文化芸術団体により、県内で様々なイベント等が展開され、県民が文化に触れ、楽しむ機会を創出した。	8,452	平成29年度	◎	文化振興課		
新規	未来へつなぐ文化活動ステップアップ補助金		平成29年度に奈良県で開催された「国文祭・障文祭なら2017」のレガシーを継承し、文化を奈良のブランドとして全国に地下強く発信するとともに、奈良の文化力のより一層の向上を図ることを目指し、文化芸術団体等が自らの創意工夫に基づいて企画・運営を行う優れた事業を支援。	9,270			平成30年度～		文化振興課		
継続	アーティスト・イン・レジデンス検討事業	再掲	国内外のアーティストを招聘し、創作活動や地域住民・芸術家等との交流を行うことにより、地域住民が地域に根付いた文化の価値に気づくとともに、地域資源の再発見や新しい文化の創造を目指す。	500	平成29年度は有識者等からなるAIR研究会を3回開催し、奈良県において実施するに相応しいAIRのあり方検討を進めるとともに、地元である天理市と協力して、AIRのモデル実施に向けた検討を重ねた。		平成29年度～33年度(5年間)	○	文化振興課		
(3) (仮称)奈良県国際芸術家村の整備	継続	(仮称)奈良県国際芸術家村整備事業		歴史文化資源活用の先駆的拠点である(仮称)奈良県国際芸術家村の整備を推進。(文化芸術活動の具体化検討、指定管理事業者公募条件検討、造成工事、建築工事等)	724,000	(仮称)奈良県国際芸術家村 造成工事に着手(平成29年12月)。建設工事についても設計に着手し、建築工事を発注(平成30年3月公告)。	1,033,508	平成29年度～	○	国際芸術家村整備推進室	
	継続	文化財活用推進事業		(仮称)奈良県国際芸術家村での活用に向けて、文化財情報の収集・保存及び教育素材の制作を行う。(3D計測による仏像保存活用事業、3D計測による重要遺構保存活用事業、未指定文化財実態把握調査事業、無形文化財・選定保存技術伝承・活用事業、(新)無形民俗文化財保存連絡協議会による伝承・活用事業、(新)近世後期社寺建造物調査事業、(新)文化財4K映像撮影・活用事業)	41,350	(仮称)奈良県国際芸術家村での活用に向けて、文化財情報の収集・保存及び教育素材の制作を行った。(3D計測による仏像保存活用事業、3D計測による重要遺構保存活用事業、未指定文化財実態把握調査事業、無形文化財・選定保存技術伝承・活用事業、無形民俗文化財保存連絡協議会による伝承・活用事業、近世後期社寺建造物調査事業、文化財4K映像撮影・活用事業)	31,378	平成29年度～	○	文化財保存課	
(4) 県内文化振興関連施設の役割と連携	継続	万葉文化館展覧会開催事業		万葉日本画等、優れた日本画や美術品に触れていただく機会を提供することにより、飛鳥を中心とした古代文化や歴史の魅力を広げ発信	25,221	館蔵品展3催、特別展4催を開催。展覧会開催日数250日間で約18千人を動員し、優れた芸術の鑑賞機会を創出した。	22,296	平成29年度～	○	万葉文化館	
	完了	万葉文化館魅力向上推進事業		様々なジャンルから本県の多様な文化を総合的にとらえた万葉古代学講座を継続開催し、万葉文化の魅力向上を図るとともに、記紀・万葉プロジェクトを推進		H29年度では、展覧会企画と連携した講座として能楽に造詣の深い専門講師を招聘し、講座を4回開催。約200人を動員し、万葉古代学と万葉文化館の魅力を広げ発信した。	176	平成29年度	◎	万葉文化館	
	完了	万葉文化情報発信強化事業		展示コンテンツの拡充を図るため、地域の歴史をわかりやすく伝える語り部を養成するとともに、駐車場に案内サイン等を設置することで、観光客の誘客を促進		講師の指導による語り部ボランティア研修会を4回実施。万葉劇場の新たなコンテンツとして平成30年度での定期的な上演を目指す。また、駐車場に展覧会の案内サインを設置し、観光客の入館促進を図った。	1,021	平成29年度	◎	万葉文化館	
	継続	NARA万葉世界賞		世界に誇る文化遺産である「万葉集」に関する学術・文化の分野において顕著な業績・功績をあげた者を広く世界から顕彰することにより、日本文化の再発見と新たな文化創造を推進 ※概ね隔年で表彰を実施していたところであるが、募集期間の延長も含め賞の周知方法を再検討することとし、今後は3年ごとの開催とする。		7名の候補者の中から、韓国東儀大学 李妍淑教授を表彰。受賞者決定については、国内のみならず、韓国のメディアにも取り上げられ、表彰制度の認知度向上につながった。	2,449	平成29年度～	○	万葉文化館	
	継続	万葉文化館広報宣伝事業		多様なイベントや効果的な広報活動を実施することにより、来館者の増加を図るとともに、万葉集を中心とした古代文化の魅力を親しみやすく、わかりやすく発信	12,947	多様なイベント開催や様々なメディアを活用した広報を実施し、万葉文化館の魅力発信と認知度向上を図った。H29総入館者数: 109,175人	10,952	平成29年度～	○	万葉文化館	
	継続	万葉集等古代文化に関する調査研究事業		世界に誇る「万葉文化(「万葉集」及びこれに関連する古代文化)」に関する調査研究を行い、研究成果については公開講座の実施や研究年報の発行により、広く一般に発信	11,259	「万葉集をよむ」「万葉古代学講座」などの開催により約3,500人を動員。また、年報を発行し約500箇所に関係機関に配付するとともに、ミュージアムショップでも販売するなど、広く調査研究の成果を発信し、万葉古代学の普及につなげた。	8,912	平成29年度～	○	万葉文化館	
	継続	奈良の地域資源と伝統美の継承と発展推進事業		奈良に受け継がれてきた地域資源に注目し、次世代に引き継ぐために、伝統の美の継承者等を広く紹介する。	16,586	◆書の源流企画展「翰墨山と紫舟のシンフォニー」 会期:H29.4.15～7.23 観覧者数:22,785人 ◆伝統工芸企画展「赤膚焼・奈良一刀彫・奈良漆器・・・悠久の美と技」 会期:H30.1.27～3.25 観覧者数:11,182人	19,947	平成29年度～	○	美術館	
	継続	展覧会事業		県立美術館のポリシー(質の高い展示、わかりやすく見やすい解説、おもてなし力向上)を実現し、上質な展覧会を提供する。	27,102	◆特別展「没後40年 幻の画家 不染鉄」 会期:H29.9.9～11.5 観覧者数:16,585人 ◆特別展「ニッポンの写真 そっくりの魔力」 会期:H29.11.23～H30.1.14 観覧者数:12,531人	26,505	平成29年度～	○	美術館	
	継続	ミュージアムコンサート開催事業		顧客満足度をより一層向上させるため、展覧会会期中にミュージアムコンサートを開催。	0	◆ミュージアムコンサート参加者:5,603人 ◆コンサート実施回数:58回	200	平成29年度～	○	美術館	
	継続	体験型プログラムによる博物館総合活性化事業→企画展開催事業で継続実施		周辺施設・機関と連携した生活体験型学習を開催。各季節毎に古民家の特性を活かした体験学習を企画し、博物館展示では実感できない体験を利用者に提供する。		年間約30日のワークショップを開催。うち半数を古民家で実施し、小学生を中心に延べ約650人が古民家での昔のくらしを体験した。また、日頃触れることのない民具を使い、道具の仕組みを体験する場も提供した。	468		◎	民俗博物館	
	継続	地域と連携した博物館ボランティア立ち上げ事業→企画展開催事業で継続実施		子どもを対象とした教材の製作や小学校の団体見学対応の充実化を支えるボランティアの体制づくりを行い、民俗博物館の幅広い活用と地域の人々の連携を促進する。		小学3、4年生向けのワークシート2種、及び常設展「昔のくらし」の解説と活用方法のヒントを伝えるアイデアブックを作成。学習に役立つよう、県内全小学校に送付するとともに、ホームページでも公開した。校外学習における館内見学時には、学芸員の解説の他、地元在住のボランティアにご協力を願っている。	232		○	民俗博物館	

文化振興施策の事業体系の分類による平成30年度文化振興関連事業のうち主なもの一覧（進捗状況）

◎：目標達成 ○：順調に進捗 △：遅れているが進捗はしている ×：進捗なし

分野	分類	区分	H30年度における事業展開(主な事業) (H29年度に終了した事業については最終年度の事業名)	再掲	H30年度 事業概要 (H29年度に終了した事業については最終年度の事業概要)	H30年度 事業予算 (千円)	事業成果	H29年度 決算額 (千円)	事業期間(終期)	事業 進捗 評価	担当課
総合		継続	民俗博物館企画展開催事業		奈良県に暮らす人々の生活の歴史とその変遷を理解するために欠くことのできない民俗資料の展示を通して、郷土文化についての認識を深め、文化の向上に資する。県民の関心の高いテーマや、より親しみやすい展示を企画すると共に、体験やボランティア参加を充実させる。	2,940					民俗博物館
		継続	古文書デジタル化等魅力構築事業		「電子図書館構想」のパイロット事業の一つとして、28年度パイロット事業として一部をデジタル化した「表野家文書」のデジタル化を継続するとともに、WEB公開に向けた環境整備を行う。	1,215	平成28年度からはじめた「表野家文書」3,200件のデジタル化を平成29年度に完了し、まほろばデジタルライブラリーでWeb公開をおこなった。	1,350	平成29年度～	○	図書情報館
		継続	資料整備事業		県民の多様なニーズに対応できるよう、新規資料を継続的に購入する。また、聖徳太子関連図書や「記紀万葉プロジェクト」関連図書の充実を図るとともに、新たに設置した「災害防災文庫」の拡充をおこなうために防災や減災を考えるための資料を収集、整備する。	44,889	県民の多様なニーズに対応できるよう、新規資料を継続的に購入。また、聖徳太子関連図書や「記紀万葉プロジェクト」関連図書の充実を図るとともに、新たに設置した「災害防災文庫」に係る資料を収集、整備した。	49,500	平成29年度～	○	図書情報館
		継続	佐保川周辺のにぎわい創出事業		佐保川沿いの生涯学習拠点として、コンサートや中高年層をターゲットとした学び直し講座「図書館学校」、マルシェやその他大規模な企画展示などを開催し、「楽しみ」「学び」「知的好奇心の喚起」といった佐保川周辺の文化動線を確立する。	1,092	佐保川沿いの生涯学習拠点として、桜の季節の桜マルシェやミュージックフェストと連携したコンサート、中高年層をターゲットとした学び直し講座「図書館学校」、岩波文庫創刊90年記念対談などを開催、合計約27,000人が参加。	1,182	平成29年度～	○	図書情報館
		完了	聖徳太子を知り奈良の魅力を再発見する事業		平成33年の聖徳太子没後1400年に向け、28年度実施した聖徳太子の魅力を紹介する連続講座を発展させ、太子道にまつわる話や聖徳太子絵伝の解説を7回開催(図書情報館で1回、県内市町村で6回開催、計1,280人が参加。講座当日は出前図書情報館として、図書情報館の利用者カードの即日発行や、講座関連図書の貸し出しもおこなった。		平成33年の聖徳太子没後1400年に向け、28年度実施した聖徳太子の魅力を紹介する連続講座を発展させ、太子道にまつわる話や聖徳太子絵伝の解説を7回開催(図書情報館で1回、県内市町村で6回開催、計1,280人が参加。講座当日は出前図書情報館として、図書情報館の利用者カードの即日発行や、講座関連図書の貸し出しもおこなった。	156	平成29年度	◎	図書情報館
		完了	記紀・万葉をテーマとした文化財活用による県東南部紹介事業		記紀万葉に書かれた注目度の高い物語をテーマにとり、関連する史跡埋蔵文化財等によって、県外からの県東南部への注目度を高める。		県南東部地域に関連する歴史文化遺産を写真パネルにおいて紹介する展示を地元宇陀市と橿原市で巡回して行い、多くの観覧者を得た。	300	平成29年度	◎	橿原考古学研究所
		継続	シルクロード東西文化交流研究事業		奈良の魅力を深め再発見するために、宗教儀礼や宝物としての奈良の歴史に織り込まれたユーラシア文化を明らかにする研究交流を行う。	1,000	ソグド人はシルクロードを通じた交易のため、北朝～隋唐期を中心に、東方の中国へ来て、各地に居留地を形成した。平成29年度は、中国におけるソグド人やゾロアスター教の状況を、現地踏査(トルファン、敦煌、西安)を実施し、遺跡や遺物から検討。	1,276		○	橿原考古学研究所
		継続	国際考古学交流事業		中国・韓国の優れた考古学研究会に参加し、考古学研究所との一層の交流を通じて、権考研の成果を中国学会に定着させる。	540	736年に来日、742年に東大寺大仏開眼法会に参加し、林邑楽を演奏した仏哲の出身地、林邑(ベトナム中部)の7～9世紀の都城や寺院遺跡を踏査。	716		○	橿原考古学研究所
		継続	古代歴史文化に関する共同研究事業		古代歴史文化の調査・研究に関心の高い14県が、それぞれに蓄積したこれまでの研究成果を基礎に連携して調査研究を進め、大きな古代史の流れの解明に取り組みるとともに、歴史文化の魅力を全国に発信する。	4,650	「古墳時代の玉類」をテーマに、14県の担当者が研究を進め、一堂に会し協同して検討する研究集会を2回開催し、その成果を一般に向け発信する講演会を東京で開催し多くの参加者を得た。また、3年半に及ぶ共同研究成果を発信するH30年の江戸博・九博での展示、成果図書の刊行に向けた準備を進めた。	948	平成29年度～	○	文化資源活用課 橿原考古学研究所
		継続	文化資源地域交流・人材育成事業 (「市民発掘隊」の創設と広報事業の充実)	再掲	1. 発掘調査への参加を希望する県民を公募し発掘隊員を養成する。 2. 「権考研通信」(一般向け考古学・埋蔵文化財ニュースの公開冊子)の発行。	1,820	1. 市民発掘隊の養成講座を実施(平成29年度修了者12名)。養成講座修了者のうち、希望した21名(平成28年度9名、平成29年度12名)が、橿原考古学研究所の実施する発掘調査に参加。養成講座(新規募集)は平成30年度で終了の予定。 2. Vol3及びVol4を刊行し、当研究所および博物館をはじめとする県内の文化施設や近鉄主要駅などで多数配布し、内容に対する一般の方々の反応も良好であった。また、県外の方々の入手希望も多く反響を呼んでいる。	1,144	平成29年度～	○	橿原考古学研究所
		継続	室生埋蔵文化財整理収蔵センターの活用		室生埋蔵文化財整理収蔵センターを活用して、多様な歴史的視点(考古学・文献・美術工芸・建造物・民俗)から、県東南部地域の歴史文化を学ぶ場を提供する。7月・11月・3月に講演会開催。	180	年3回考古学、歴史的建造物及び仏教美術史に関する講演会を開催し、多数の聴講者を集めた。アンケートなどを通して聴講者の反応は概ね満足したというものであった。	101	平成29年度～	○	橿原考古学研究所
		継続	特別展の開催		考古学に対する理解を深めるため、考古学に関連したテーマを定めた特別展を春季と秋季に開催。	8,448	春季特別展「新作発見! 弥生絵画一人・動物・風景」、秋季特別展「黒塚古墳のすべて」を開催した。春季特別展は10,949名、秋季特別展は11,634名の入館者を集め、好評のうちに終えることができた。	6,833	平成29年度～	○	橿原考古学研究所 所附属博物館
		継続	考古学による魅力再発見事業		秋季特別展開催にあわせ、特別陳列を実施。県内外から資料を借用するための、美術専用車による輸送委託料	1,458	東京(東京国立博物館、室内庁書院部、國學院大學博物館)、京都(京大総合博物館)、大阪(大阪府立近つ飛鳥博物館)、奈良(御所市教育委員会)の各方面の資料借用・返却を美術専用車により実施した。	1,620	平成29年度～	○	橿原考古学研究所 所附属博物館
		継続	プロムナードコンサート2018	再掲	地元のプロオーケストラと著名な指揮者・ソリストとの共演によるクラシックコンサート。さらに、上質な音楽に触れる機会を求める若者を支援するための企画を導入。	7,411	平成29年8月13日(日)開催 来場者数737人	7,106	平成29年度～	○	文化会館
		継続	舞台芸能による中何羽地域活性化事業		中何和地域を題材とした舞台芸能を実施することで、同地域の魅力を紹介し、同地域への誘客を目指す。	2,187	「奥大和音楽絵巻」H30.2.11実施 / 来場者アンケート総合的満足度93.0%	2,220	平成29年度～	○	橿原文化会館
		継続	橿原文館ホール関係自主事業	再掲	「ムジークフェストなら」及び「奈良県大芸術祭」期間中にコンサート等を実施することで、県民に良質な文化芸術を提供し、さらなる賑わいの創出に寄与する。	4,385	「星と夜空の音楽会」H29.6.17実施 / 来場者アンケート総合的満足度100.0% 「ジブリの思い出がいっぱい」H29.10.15実施 / 来場者アンケート総合的満足度98.0%	4,180	平成29年度～	○	橿原文化会館
	継続	歴史文化資源説明力向上事業	再掲	県全体で歴史文化資源の説明力向上を図るため、研修を実施する。	265	8月及び10月に市町村職員等に研修を実施	198	平成29年度～	○	文化資源活用課	